

## 卵子の格付け

最近、韓国では、インターネットを通じて人の卵子の売買を斡旋していたとして男女二人が逮捕されるという事件が発生しました。

子どもが欲しいと待ち望んでいるのに授からず、悩んでいる夫婦が沢山いらっしゃいます。お隣の国とはいえ、そうした切実な思いにつけ込むような事件が発生したということは、大変遺憾なことですし、人ごとではないと感じています。

体外受精や代理出産、試験管ベビーなどなど、生殖医学の発展には驚くべきものがあります。今では生まれる前に性別はもとより、障がいの有無まで分かっけてしまいます。このため、折角妊娠しても、障がいがあるから産まないというケースが生じています。

また、アメリカ人女性の卵子の提供を受けて、自分の子宮で育てて出産した女性も出てきましたが、こうなると、金髪の子が欲しいとか、頭の良い子が欲しいというような形での産み分けまでが可能となります。韓国の事件は、親になろうとする人たちのニーズが、そういうところにもあるということの裏返しといえるでしょう。とはいえ、容姿や頭脳などが優れているかどうかで人の卵子や精子に差を付けるという行為は、競走馬でもあるまいし、許されることではありません。

大体、容姿や頭脳が優れているからといって、人間としても素晴らしいという保証はどこにもありません。現に、両親は立派だけれど、その子はどうにもならない問題児というケースはいたるところにあるのですから。

卵子と精子が結合した瞬間に、その人の一生が決まってしまうとしたら、人生なんでもものは余りにも味気ないですね。氏より育ちとはよくいったもので、我が家を見ると「カエルの子はカエル」だなどは思うけれど、世の中を見渡せば「鳶が鷹を産む」ことだって沢山あるのです。

かつて、大物理学者のアインシュタインが70歳を過ぎたある日、当時人気絶頂にあったマリリン・モンローが彼にこう囁いたそうです。「私の美貌とあなたの頭脳を持った子供が出来たら、素晴らしいと思わない？」このマリリンの誘いに、アインシュタインは何と答えたのでしょうか？（塾頭 吉田 洋一）